

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0865  
 住 所 川崎市川崎区千鳥町10-2  
 氏 名 日本合成樹脂株式会社 印  
 代表取締役社長 原田 耕治  
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本合成樹脂株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町10-2		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業 (別掲を除く)
主たる事業 の内容	石油樹脂製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,153	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	日本合成樹脂株式会社 製造グループ
		所在地	川崎市川崎区千鳥町10-2
		電話番号	044-288-5031
		FAX番号	044-299-0290
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 4,146 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,146 t-CO <sub>2</sub>	(実) 4,098 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,098 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,965 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,965 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,888 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,888 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,795 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,795 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 1.2 % (調) 1.2 %	(実) 4.4 % (調) 4.4 %	(実) 6.2 % (調) 6.2 %	(実) 8.5 % (調) 8.5 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	kl/t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.1681	0.1704	0.2021	0.2120	0.1631
削減率		-1.4 %	-20.2 %	-26.1 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	原料不足により低稼働生産となりエネルギー原単位悪化に繋がった。 温室効果ガス排出量は前年度対比98%の生産だったため排出量としては1.2%削減されたかたちとなっている。
第2年度	原料不足により低稼働生産となりエネルギー原単位悪化に繋がった。 温室効果ガス排出量は前年度対比83%の生産だったため排出量としては4.4%削減されたかたちとなっている。
第3年度	原料不足による低稼働生産となりエネルギー原単位悪化に繋がった。 温室効果ガス排出量は基準年度対比79%の生産だったこと、生産品目の見直し、省エネルギー削減活動の結果排出量としては基準年度対比6.2%削減率になっている。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実績検討会</li> <li>○加熱炉管理</li> <li>○加熱炉回りの断熱材更新</li> <li>○空気調和</li> <li>○スチームトラップ管理</li> <li>○変電所更新</li> <li>○真空ポンプ仕様変更</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実績検討会 毎月製造実績からエネルギー原単位を、エネルギー統括者を中心に確認した。</li> <li>○加熱炉回りの断熱材更新実施</li> <li>○真空ポンプ仕様変更実施 22kwh⇒3.7kwhの真空ポンプを設置</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○加熱炉本体放熱防止塗装の実施</li> <li>○エアコンフィルター定期清掃(1回/月)・温度管理の徹底仕組み化</li> <li>○変電所更新(第二期工事)</li> <li>○主要設備等の管理標準の定期見直し、改善</li> </ul>
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○熱媒配管保温不良個所の補修実施</li> <li>○変電所更新(第三期工事) 完了</li> <li>○変圧器を高効率型に仕様変更</li> <li>○MCC盤更新にともない単相負荷の管理実施</li> </ul>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○触媒原単位削減において中和剤使用量削減を計り、廃棄物発生量の削減を図る。</li> <li>○受注配送モーダルシフト化の推進</li> <li>○廃棄物分別管理</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受注配送モーダルシフト化の推進 岡山配送を車両から船舶にシフト変更実施</li> <li>○廃棄物分別管理の実施 一般廃棄物及びリサイクル紙の分別管理 廃油・汚泥の分別管理</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的生産合格率の向上管理（95%以上）</li> <li>○コピー用紙の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・裏面の有効利用</li> <li>・紙管理記録類の電子化</li> </ul> </li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産業廃棄物削減を図るため、触媒使用量の改善を行い中和剤（廃棄物）使用量の削減を行った。 2010年度実績26.0kg/製品tonの1.4%削減目標 ⇒2012年度実績23.7kg/製品ton（8.8%削減）</li> <li>○コピー用紙の削減 紙管理記録類の電子化⇒3つの記録を電子化に変更</li> </ul>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	3,427	t-CO <sub>2</sub>
(調)	3,427	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
日本合成樹脂株式会社	川崎市川崎区千鳥町10-2	1635	プラスチック製品製造業	3,427 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--